

低炭素型建設工事アクション

低炭素型
建設工事アクション



地球規模から身近な行政レベルまでの幅広い範囲でCO2排出削減に向けた取り組みが進む中、高橋建設では施工する2つの工事について、施工時における作業の効率化や省エネ対策に積極的に取り組むことで建設工事における消費エネルギーの抑制（CO2の排出抑制）を行いました。

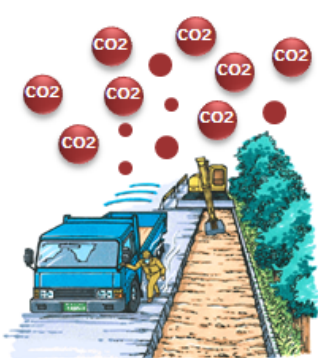
この2つの工事については、施工時に発生してしまう環境負荷であるCO2排出量を算定（①見える化）し、作業の効率化や省エネ対策（②削減努力）を施した上で、なおかつ消費されてしまうエネルギー消費にもとづくCO2排出分を、カーボン・オフセットという仕組みを用いて③埋め合わせるアクションを実行しています。

低炭素型建設工事アクションの対象とした工事

一般国道227号厚沢部町富栄交差点改良工事

低炭素型建設工事アクション 取組み全体像

一般国道227号厚沢部町
富栄交差点改良工事



工期：H28.9～H29.3



灯油：13,500ℓ → 34t-CO2
軽油：21,900ℓ → 57t-CO2

事前に消費されるエネルギー（CO2排出）を試算し、CO2排出量91tを含む100t分を対象に事前にカーボンオフセット手続きを実行。

工事完了後、CO2排出量の実績が事前に試算した91tを10%以上上回る場合は、10%以上分のCO2排出量について、追加のカーボンオフセット実施を検討する。

低炭素型建設工事アクション

取組みの背景

建設業界は日本の産業部門別CO2排出量でも上位に位置しており、高橋建設では多くの工事を手掛ける建設事業者として、かねてよりCO2排出削減に貢献できる自社アクションを考えていました。また、北海道開発局が進めている「北海道エコ・コンストラクション・イニシアティブ/環境家計簿」の利用も今後積極的に取り入れて行くことを想定し、今回の低炭素型建設工事アクションを実施することになりました。

建設工事におけるCO2排出責任は、施工する工事業者よりそもそも工事を発注した側に重きがありますが、今回の取組みで受発注者共に地球環境に配慮し、発注者側にとっては工事業者の協力を持って環境貢献型工事の施工実績を得たことになると考えています。

今後、発注者と受注者が共同したこのような低炭素型の建設工事が増えていけば、工事現場におけるCO2排出を削減したという効果だけではなく、発注者側の環境CSRの拡充や評価向上にも繋がっていくと考えています。

カーボン・オフセットへの取組み

今回実施した低炭素型建設工事アクション、「①見える化」→「②削減努力」→「③埋め合せ/カーボン・オフセット」のうち、3番目のステップとなる「カーボン・オフセット」について、埋め合せる412ton-CO2 (62ton+350ton) へ割り当てる排出権は、国（経済産業省、環境省、農林水産省）が管理する、J-クレジット制度 (*1)において認証・発行されたCO2排出削減クレジットを使用します。

CO2削減クレジットは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用など、全国各地のさまざまな事業者の取組みや自社努力によって生み出された環境価値。従ってCO2削減クレジットをカーボン・オフセットで利用することは、工事現場のCO2排出を埋め合せるという効果に加え、日本各地で行われている削減事業の活性化に貢献することにもなります。



低炭素型建設工事アクション/ カーボン・オフセット実施の証し

今回の低炭素型建設工事アクションにおいても、CarbonPASSブランドのカーボン・オフセット証書が発行され、高橋建設の取組みを幅広く発信するツールとして効果を発揮している。

